

管理栄養学科 シラバス目次

4年前期

配当年次	ページ数	科目名	ナンバリング
1年～4年	66	スポーツ・リクリエーション	CH103
4年通年	212	総合演習Ⅱ	NG702
4年前期	224	ゼミナールⅡ	NS702
4年通年	228	健康・栄養総合演習概論	NH702
4年通年	232	健康・栄養総合演習Ⅰ	NH703
4年通年	234	健康・栄養総合演習Ⅱ	NH704
4年通年	236	健康・栄養総合演習Ⅲ	NH705
3年後期～4年前期	260	栄養教育実習事前事後指導	EP601
4年前期	262	栄養教育実習	EP701

スポーツ・リクリエーション

(1単位)

(管理栄養学科・食品学科)

開講時期 1-4年・前～後期
 担当者氏名 膳法 浩史

◆授業概要

生涯にわたって楽しむことができるスポーツやリクリエーションを身につけると生活が豊かになる。本講座は、下記の内容を行う。

- ①ウォーキングラリーの体験と提案
- ②チームビルディングイベントの体験と提案

実習は、教室、体育館およびイベント会場で実施する。

◆到達目標

1. リクリエーション活動に積極的に取り組む。
2. スポーツ・リクリエーションイベントの提案ができる。
3. スポーツ・リクリエーションイベントの運営ができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	ガイダンス	日時は履修登録者に対してメールで連絡を行う	予習 ウォーキングラリーについて調べる(60分)
			復習 会場までの道順を調べる(30分)
2	ウォーキングラリー①	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 会場周辺の情報を調べる(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
3	ウォーキングラリー②	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
4	ウォーキングラリー③	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 参加者のコメントを確認する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(60分)
5	ウォーキングラリー④	ウォーキングラリーイベントに参加する	予習 ルートを復習する(30分)
			復習 わからなかった用語を調べる(30分)
6	ウォーキングラリー⑤	ウォーキングラリーイベントを分類し、議論する	予習 ウォーキングラリーの種類を調べる(30分)
			復習 議論した内容をまとめる(60分)
7	ウォーキングラリー⑥	東京聖栄大学を会場としたウォーキングラリーイベントを提案する	予習 ウォーキングラリーイベントを考える(60分)
			復習 提案した内容をまとめる(60分)
8	チームビルディング①	チームビルディングの基礎	予習 チームビルディングを調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
9	チームビルディング②	チームビルディングの種類	予習 チームビルディングの種類を調べる(60分)
			復習 用語をまとめる(30分)
10	チームビルディング③	チームビルディングイベントの運営	予習 イベント運営の方法を調べる(60分)
			復習 イベント運営の心得をまとめる(30分)
11	チームビルディング④	チームビルディングの提案、議論	予習 新しいチームビルディングを考える(60分)
			復習 提案内容をまとめる(30分)
12	チームビルディング⑤	チームビルディングの練習を行う	予習 チームビルディングの方法を確認する(60分)
			復習 流れを再確認する(30分)
13	チームビルディング⑥	チームビルディングの練習を行う	予習 担当と流れを確認する(30分)
			復習 担当と流れを再確認する(60分)

14	レクリエーションイベント運営①	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 担当と流れを再確認する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)
15	レクリエーションイベント運営②	3班に分かれてイベント運営を行う	予習 各班のイベントを分類する (30分)
			復習 各班の発表内容をまとめる (30分)

※過去のウォーキングラリー： 2022年度 神田万世橋、2021年度 学内、2020年度 舞浜イクスピアリ

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

◆参考書

書名	著者	発行所

◆関連科目
体育実技

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	20	実技 (発表・コミュニケーション)	80
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)			

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

レポートや発表に対して対面、メール、またはMoodleによって、フィードバックを行う。

◆受講上の注意事項及び助言

本実習は、集中授業であるため可能な限り欠席しないよう心掛けること。万が一、欠席する場合は個別に対応を行う。

◆オフィスアワー

受付時間： 毎回の講義終了後

受付場所： 6号館2階体育学研究室

上記で対応できない場合： 質問用の電子メール (zenpou-h@tsc-05.ac.jp) で対応する。

総合演習Ⅱ

(1単位) (管理栄養学科)

開講時期 4年・前期～4年・後期

担当者氏名 高橋美恵子 宮内眞弓 小林陽子 風見公子 佐藤ひろ子 柴田隆一

◆授業概要

総合演習Ⅱは、臨地実習の教育効果を向上させるための事前・事後指導である。特に臨床栄養学分野を中心として給食の運営・給食経営管理論、公衆栄養学分野の分野について学ぶ。

実践活動の場において、「課題発見(気づき)・問題解決」と「専門的知識と技術の統合」を図るなどを体験することにより、事前教育において学んだ、「実習の目的、目標の理解、心構え、事前の準備の徹底、知識の整理、研究課題の設定」等がどのように活かされたか。また、臨地実習終了後、「実習内容や研究課題」をまとめることにより、関連専門職と協働関係を構築することなど、管理栄養士の職務について総合的に理解することが目的である。学内学習と臨地実習の成果を結びつけ、知識と技術の統合に務め、自分達の臨地実習の内容を学年及び下級生にも説明し、伝える能力を身につける。この授業は、講義とグループワーク、グループディスカッション、パワーポイントを使用した報告発表(プレゼンテーション)から成り立っており、発表は教員及び学年全員の評価をするアクティブ・ラーニング形式で進める。

◆到達目標

1. 臨床栄養学分野の臨地実習の研修計画を実施できる。
2. 課題を設定して、問題点の解決法等を文書でまとめることができる。
3. 体験した職務の報告書に基づいて、発表ができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1～2	報告書の作成および発表資料の作成	<ul style="list-style-type: none"> 給食の運営、給食経営管理論分野実習報告書をまとめる 報告会原稿作成(スライド作成) 	予習: 臨地実習ノートを再読し、資料作成に役立てる。(120分)
			復習: 報告書をまとめ、スライド、口頭発表原稿をまとめる。(360分)
3	臨地実習報告会	<ul style="list-style-type: none"> 給食の運営、給食経営管理論分野実習報告結果、課題発表 	予習: 各班スライドを使用し発表会練習。(120分) 復習: 他施設の発表内容からの再習。(120分)
4	臨床栄養学分野(病院・福祉)実習概要説明①	<ul style="list-style-type: none"> 病院、福祉施設について概要説明 実習施設発表 	予習: 上級生の報告書を再読する。(120分)
			復習: 実習施設の報告書を再読する。(120分)
5	臨床栄養学分野(病院・福祉)実習概要説明②	<ul style="list-style-type: none"> 病院実習の概要説明 病院の現場で臨床栄養学分野を担当する管理栄養士の実体験等講義 	予習: 実習施設の概要の事前学習。(120分)
			復習: 実習施設の概要をまとめる。(120分)
6	臨床栄養学分野(病院・福祉)実習概要説明③	<ul style="list-style-type: none"> 福祉施設実習の概要説明 福祉の現場で臨床栄養学分野を担当する管理栄養士の実体験等講義 	予習: 実習施設の概要の事前学習。(120分)
			復習: 実習施設の概要をまとめる。(120分)
7	実習施設の情報収集	<ul style="list-style-type: none"> 医療機関の概要について事前情報収集を行う 	予習: 実習施設の概要の事前学習。(120分)
			復習: 実習施設の概要をまとめる。(120分)
8～9	臨床栄養学分野実習における課題研究について	<ul style="list-style-type: none"> 臨床栄養学分野実習における課題研究テーマの考え方と方向性 	予習: 課題計画書の作成。(120分×2回)
			復習: 計画書の再考、情報収集。(120分×2回)
10	提出書類の確認	<ul style="list-style-type: none"> 履歴書 予防接種確認書 細菌検査結果表 その他提出書類一式 	予習: 必要書類等の準備。(120分)
11	臨床栄養学分野実習事前最終ガイダンス	実習に向けての諸注意、持参物確認等	予習: 臨地実習ノートを熟読する。(60分) 復習: 臨地実習ノートの再確認、持参物を自宅で確認する。(90分)
12	医療機関別ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> 各実習施設の「施設ガイダンス」 	予習: 実習施設の事前学習。(120分)
			復習: ガイダンス内容のまとめ。(120分)
13	臨地実習報告会練習	<ul style="list-style-type: none"> 報告書をまとめる 報告会原稿作成(スライド作成) 	予習: 報告書、発表原稿作成。(120分)
			復習: 発表原稿の再構成。(120分)
14	臨地実習報告会	<ul style="list-style-type: none"> 保健所、保健センター実習結果、課題発表 	予習: 発表資料の確認と口頭発表原稿の暗記。(120分)
			復習: 他施設の発表内容からの再習。(120分)

15	臨地実習報告会	・臨床栄養学分野（病院・福祉）実習結果、課題発表	予習：発表資料の確認と口頭発表原稿の暗記。（120分） 復習：他施設の発表内容からの再習。（120分）
----	---------	--------------------------	--

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨地実習マニュアル「臨床栄養学」第5版	寺本房子 他	建帛社
臨地実習ノート	東京聖栄大学	東京聖栄大学臨地実習センター

◆参考書

書名	著者	発行所
臨地実習及び校外実習の実際（2014年版）	（公社）日本栄養士会 他編	（公社）日本栄養士会、（一社）全国栄養士養成施設協会
八訂食品成分表	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部
日本人の食事摂取基準 2020 年版	国立健康・栄養研究所 監修	第一出版

◆関連科目

給食計画論・給食経営管理論、栄養教育論、公衆栄養学、臨床栄養学、応用栄養学、食事介護論等
およびその実習

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	30	実技（発表・コミュニケーション）	20
学習に取り組む姿勢・意欲	50		

（補足）報告書の 30%については誤字・脱字がなく、個人の主張が論理的かつ明確に記述されていることを確認し、5段階で評価する。学習に取り組む姿勢・意欲 50%は、「積極的に意見を述べる」「チームをリードして進める努力をしている」「課題に対して指示が無くても積極的に取り組んでいる」の3項目について評価する。発表・コミュニケーションは、報告発表で教員及び学生に評価表を渡し、その点数で評価する。また、外部講師の都合等により、授業の順番は変更する可能性がある。

◆課題（試験やレポート等）のフィードバックの方法

課題は、内容をチェックし、訂正、コメントを記載し返却。

◆受講上の注意事項及び助言

※臨地実習実施時期が、3年後期から4年前期：医療機関（病院・福祉施設）と4年前期から4年後期（保健所・保健センター）と同一時期ではないため、報告会は別々に開催する。

事前に掲示板で連絡するので、見逃し等無いよう注意すること。

※計画された全ての日程通りに出席しないと評価されない。

※臨地実習先により、事前に要求されることが異なるので、施設に合わせた対応が出来るように準備しておくこと。

◆オフィスアワー

受付時間：随時

受付場所：臨地実習センター

上記で対応できない場合：臨地実習センター前のメッセージボードを活用する。

緊急の場合は、直接学生の携帯電話に連絡を入れることもあるので、必ず受信できる状態にしておくこと。（留守電等）

ゼミナールⅡ・Ⅲ（各1単位）（管理栄養学科）

開講時期 4年・前・後期
 担当者氏名 管理栄養学科教員

◆授業概要

ゼミナールⅡ・Ⅲでは、管理栄養士としての素養や知識をより確実なものとするとともに、実践的活用にも対応すべく、指導教員の教科担当分野ごとの今日的諸問題を学生からの問題提起として取り上げ、当該担当教員による適切な指導のもと学生主体の授業を展開する形で学習を進める。指導教員への学生配置は原則として学生の学習希望分野を考慮してきめる（グループの形成）。また、授業（1単位）は、グループ授業12回と全体授業2回、担任指導1回の全15回をⅠ（前期）・Ⅱ（後期）に行う。

◆到達目標

1. 開講年次は学生にとって最終学年であることから、学習成果が大学生生活の仕上げとして実感できるように取り組む。
2. ゼミナールⅡにおいては、学習分野の情報をより多く獲得して、管理栄養士を目指す学生の資質向上に役立てる。
3. ゼミナールⅢにおいては、各分野での学習を通して、社会に出て活躍できる管理栄養士としての学問体系の総合化を図るとともに必要知識の充実と人格の一層の向上をはかる。
4. 仲間と互いに協力しあい、切磋琢磨することでグループ全員の国家試験合格を勝ち取れるよう各自の実力アップを図る。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1～12	グループ授業	<ul style="list-style-type: none"> ・生化学、基礎栄養学分野（大塚） ・食品衛生学・食べ物と健康分野（星野） ・食育・給食経営管理論分野（風見・柴田） ・臨床栄養学の分野（宮内・正田） ・応用栄養学の分野（小林） ・栄養教育論の分野（高橋） ・公衆栄養の分野（佐藤） ・保健体育学分野（療法） ・学校現場を知ろう・教職研究の分野（有村・田中） ・基礎科学の分野（鈴木等） ・ゼミナールⅡにおいては3年生ゼミ生への指導・協働ゼミを行う 	予習：分野グループごとに指示する（各回毎に30分）
			復習：分野グループごとに指示する（各回毎に30分）
13	共通の分野（1）	ゼミナールの概要と身になるゼミナールの受講方法を知る。	予習：学習計画の立案と目的地・到達地を具体化する。（30分） 復習：ノートと資料に目を通す。（30分）
14	共通の分野（2）	就職活動の実際と国家試験受験勉強の両立の仕方を知る。	予習：キャリアアデバロップの視点に立った両立の実際を知る。（30分） 復習：ノートと資料に目を通す。（30分）
15	担任指導	学生全員に対する担任指導	予習：キャリアアデバロップの視点に立った両立の実際を知る。（30分） 復習：配布資料を理解する。（30分）
	まとめと成績評価	総括と評価（受講態度、レポート、出席状況をみて担当教員が行う）	

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
分野グループごとに選定		

◆参考書

書名	著者	発行所
分野グループごとに選定		

◆関連科目

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート	50	実技 (発表・コミュニケーション)	20
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	30		

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

提出書類は細かくチェックし指導する。テストは解答解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

授業の内容やグループ分けの変更、再検討は必要に応じて行う。

ゼミナール学習を作り上げる一員として積極性、協調性、出席を求める。

ゼミ担当者から皆さんへの注文です。ゼミナールは単位認定を伴う教科です。真面目に取り組む学生の参加を希望します。

ゼミナールⅡは3年生がゼミ開始となり3年生への指導、3年生とゼミの目標達成に協力して実行する。

◆オフィスアワー

受付時間：担当ごとに指示

受付場所：担当者研究室

上記で対応できない場合：各担当教員のメールボックス利用あるいはメール対応など各ゼミで教員と話し合い決定する。緊急の場合には、4年生の担任教員に指示を仰ぐ。

健康・栄養総合演習概論

(2 単位) (管理栄養学科)

開講時期 4 年前・後期
 担当者氏名 学科長 国試対策室長 星野浩子 4 年担任 4 年副担任
 (試験監督は管理栄養学科教員で分担)

◆授業概要

管理栄養士資格取得のための専門基礎科目の各分野で必要とする知識を基礎として、その専門領域での理解力を深め、管理栄養士国家試験問題を解く力を向上させる。

専門基礎分野および専門分野において、横断的な学習効果の充実強化を図る。

基本的に授業プリントを用いた授業形式で、問題演習も合わせて行うことで内容の定着を図る。

◆到達目標

1. 「社会・環境と健康」、「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」の各分野の理解力を向上させ、他の関連する科目と横断的に理解を深めることができる。
2. 専門基礎分野、専門分野全般にわたって総合的に理解し、応用力のある知識と実践できる能力を身につけることができる。
3. 学習効果が上がるように、コミュニケーションをとりながら積極的にグループ学習ができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習
1	ガイダンス(室長、星野)	前期授業の概要及び諸注意、評価方法について	予習 シラバスを読んでおく。学生便覧で単位の確認をしておく(30分) 復習 配布資料を読みこの授業に臨む心得を確認する。単位取得方法を理解する。(30分)
2	国試対策ガイダンス①(星野)	出題基準、出題傾向について 勉強方法、学習計画の立て方について	予習 前週の資料と出題基準に目を通しておく(30分) 復習 配布された資料を確実に理解する(30分)
3	模擬試験①		予習 関連授業で配布されたプリントに目を通し、正文化しておく(60分) 復習 模試問題の見直しを確実に理解する。過去問も解き正文化する(120分)
4.5	自己採点、解説(福田・正田)	「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」分野の解説とグループ学習	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通し、正文化しておく(60分) 復習 模試問題の見直しを確実に理解する。過去問も解き正文化する(120分)
6	国試対策ガイダンス②(星野)	第39回管理栄養士国家試験の出題傾向	予習 配布されたプリントに目を通しておく(10分) 復習 解説を確実に理解する。(30分)
7	模擬試験②		予習 関連授業で配布されたプリントに目を通しておく(60分) 復習 模試問題の見直しを確実に理解する(120分)
8.9	自己採点、解説(倉橋・佐藤)	「社会・環境と健康」「公衆栄養学」分野の解説とグループ学習	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通し、正文化しておく(60分) 復習 模試問題の見直しを確実に理解する。過去問も解き正文化する(120分)
10~12	「食べ物と健康」分野	食品学総論、各論、食品加工学、食品衛生学 食品表示等について解説 過去問を解きながら解説し、出題傾向についても解説	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通しておく。該当分野の過去問を解き、正文化しておく。(80分) 復習 配布資料を確実に理解し、関連問題を解き理解する。(90分)
13~15	「人体の構造と機能および疾病の成り立ち」「臨床栄養学」分野	解剖生理学、病理学、応用栄養学、臨床栄養学について横断的に関連づけて解説。過去問を解きながら、出題傾向についても解説	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通しておく。該当分野の過去問を解き、正文化しておく。(60分) 復習 配布資料を確実に理解し、関連問題を解き理解する。(90分)
16~18	「生化学」「基礎栄養学」分野	栄養生化学、基礎栄養学を特に重要な項目を基礎から学ぶ。過去問を解きながら、出題傾向についても解説。	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通しておく。該当分野の過去問を解き、正文化しておく。(60分) 復習 配布資料を確実に理解し、関連問題を解き理解する。(90分)

19	ガイダンス (星野)	後期授業の概要及び諸注意、評価方法について。受験資格取得に関する注意事項について	予習 前期授業で配布されたプリントに目を通しておく(30分)
			復習 配布資料を読み理解する。特に単位履修については深く理解する。(30分)
20	国試対策ガイダンス③ (星野)	成績表の活用方法、学習方法、模擬試験受験後の振り返りの具体的方法 卒業生による国試体験談。特に勉強方法や、苦手科目の克服方法	予習 関連授業で配布された冊子に目を通しておく。個人成績表にどのようなことが記載されているか見てくる。(30分)
			復習 模試問題の見直し方法・勉強方法に基づき実施した問題を見直す。出題家傾向を確認しておく。(30分)
21	模擬試験③		予習 関連授業で配布されたプリントに目を通しておく(60分)
			復習 模試問題の見直しを確実に理解する(120分)
22～ 24	自己採点、解説 (星野、大塚、鈴木)	「食べ物と健康」「基礎栄養学」分野の解説とグループ学習	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通しておく(60分)
			復習 模試問題の見直しを確実に理解する(120分)
25	模擬試験④		予習 関連授業で配布されたプリントに目を通す(60分)
			復習 模試問題の見直しを確実に理解する(120分)
26.27	自己採点、解説 (小林、宮内)	「応用栄養学」「臨床栄養学」分野の解説とグループ学習	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通す(60分)
			復習 模試問題の見直しを確実に理解する(120分)
28	模擬試験⑤		予習 関連授業で配布されたプリントに目を通す(60分)
			復習 模試問題の見直しを確実に理解する(120分)
29.30	自己採点、解説 (高橋、風見、柴田)	「栄養教育論」「給食経営管理」「応用力」分野の解説とグループ学習	予習 関連授業で配布されたプリントに目を通す(60分)
			復習 模試問題の見直しを確実に理解する(120分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所

◆参考書

書名	著者	発行所
管理栄養士国家試験完全攻略 2024	日本医歯薬研修協会	日本医歯薬研修協会
クエスチョンバンク 管理栄養士国家試験問題解説 2024	医療情報科学研究所	メディックメディア
レビューブック管理栄養士 2024	医療情報科学研究所	メディックメディア

◆関連科目

管理栄養士資格取得のために履修する専門基礎科目及び専門科目全般

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	
レポート 正文化提出	10	実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

1. 原則ガイダンスや模擬試験の欠席は認めない。欠席した場合も後日必ず補講する。
2. 成績評価は、試験の点数だけでなく、学習に取り組む姿勢や意欲(積極的に授業に参加しているか)、提出物の提出状況、その内容についても評価し、総合的に判断し単位評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

模擬試験終了後は、自己採点をする。解説集も合わせて配布する。その後、授業の中で解答・解説を行う。特に正答率の低かった問題については、担当教員が丁寧に解説を行う。

◆受講上の注意事項及び助言

1. 原則模擬試験の欠席は認めない。欠席届は事前に提出する。(欠席届は臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に1枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。)
2. 管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを理解したうえで、単位取得、実力向上に向け努力すること。
3. この科目においてガイダンス (5回) は重要であるので、欠席しないこと。
4. この科目に関する質問や各種届け等は、国試対策室で受け付ける。

◆オフィスアワー

受付時間：月曜～金曜の昼休みまたは放課後(国試対策室)

受付場所：国試対策室および星野研究室

上記で対応できない場合：国試対策室前のメッセージボードに氏名、用件を記入。(原則翌日返答対応)
メールでの質問も可能。

健康・栄養総合演習Ⅰ (4単位) (管理栄養学科)

開講時期 4年・前・後期

担当者氏名 正田良介 福田亨 大塚静子 鈴木等 谷本守正 熊谷美智世 星野浩子 篠原優子

◆授業概要

専門基礎分野の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」、「食べ物と健康」及び「栄養学」は、管理栄養士が実務を遂行するために身につけておくべき基本教科である。国家試験対策においてもその理解は最も重要であるにもかかわらず、学生が苦手とする教科である。4年次に開講される国家試験対策補習の実効を上げるためにもその理解は不可欠である。健康・栄養総合演習Ⅰにおいては、各教科の基礎力の確認と国家試験対策に支障のないレベルへの実力向上を目指す。

基本的に授業プリントを用いた授業形式で、問題演習も合わせて行うことで内容の定着を図る。

◆到達目標

1. 専門基礎分野の基礎力を固め、科目を越えて横断的かつ総合的に応用する能力をつけることができる
2. 管理栄養士国家試験に合格できる知識と能力を身につけることができる

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
14回	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち(正田)	<ul style="list-style-type: none"> ・病変 ・疾患の症状と病態生理 ・疾患の診断と治療 まとめて過去問演習と解説	予習 配布資料を読み、問題の仕上げを確実に 行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小 テストにも備える。(60分) 復習 実施した練習問題を見直し、間違えた部 分を整理、理解しておく。(60分)
14回	生化学Ⅱ(福田)	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造 ・生体エネルギー、糖質・たんぱく質・脂質 の代謝 ・核酸、酵素、情報伝達機構及び恒常性 苦手項目の解消と向上を過去問題により実 施する過去問題演習	予習 配布資料を読み、問題の仕上げを確実に 行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小 テストにも備える。(60分) 復習 実施した練習問題を見直し、間違えた部 分を整理、理解しておく。(60分)
14回	栄養学(大塚)	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養の概念 ・食行動 ・消化と吸収 ・五大栄養素の構造と機能 ・水・電解質 ・エネルギー代謝 まとめて過去問演習と解説	予習 配布資料を読み、問題の仕上げを確実に 行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小 テストにも備える。(60分) 復習 実施した練習問題を見直し、間違えた部 分を整理、理解しておく(60分)。
10回	食品学(谷本2回・篠原8回)	<ul style="list-style-type: none"> ・「食べ物と健康」分野のガイドライン説明 ・食品の分類と食品の成分 ・食品成分表 ・食品の機能性とその成分 ・食品の生産、加工、保存、流通 ・栄養素の変化 まとめて過去問題演習・解説	予習 配布資料を読み、問題の仕上げを確実に 行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小テ ストにも備える。(60分) 復習 実施した練習問題を見直し、間違えた部 分を整理、理解しておく。(60分)
14回	食品衛生学(星野)	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生関連法規 ・食品の変質 ・食中毒 ・感染症 ・食品中の有害物質 ・食品添加物 ・食品衛生管理 ・新しい安全性の問題 ・食品の安全性、表示と規格基準 まとめて過去問演習および解説	予習 過去問を解いて正文化しておく。重要な 語句をノートにまとめておく。小テストに備え、 ノートを繰り返し見ておく。(60分) 復習 実施した練習問題を見直し、間違えた部 分を整理、理解しておく。キーワードをまとめる。 関連した過去問を再度解く。(60分)
10回	調理学(熊谷)	<ul style="list-style-type: none"> ・テクスチャー ・食品の容器包装 ・官能評価 ・非加熱・加熱調理操作、調理器具 ・熱の伝わり方 ・食品の調理性 ・供食 まとめて過去問題演習及び解説	予習 配布資料を読み、問題の仕上げを確実に 行い、ノートにまとめ、整理、理解する。適宜、小 テストにも備える。(60分) 復習 実施した練習問題を見直し、間違えた部 分を整理、理解しておく。(60分)

14 回	専門基礎科目（鈴木）	過去問で出題される基礎科学について繰り返し演習する	予習 配布資料を読んで、重要な語句をノートにまとめておく。ノートを繰り返し見ておく(60分)。
			復習 実施した練習問題を見直し、間違えた部分を整理、理解しておく。(60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
特になし		

◆参考書

書名	著者	発行所
クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説 2024	医療情報科学研究所	メディックメディア
管理栄養士国家試験完全攻略 2024	日本医歯薬研修協会	日本医歯薬研修協会
レビューブック管理栄養士 2024	医療情報科学研究所	メディックメディア

◆関連科目

基礎栄養学、栄養生化学Ⅰ・Ⅱ、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、病理学Ⅰ・Ⅱ、食品学総論Ⅰ・Ⅱ、食品学各論Ⅰ・Ⅱ、食品衛生学、調理学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

1. 定期試験において 100 点満点中 60 点を合格とするが、学習に取り組む姿勢等も含めて総合的に評価し、単位認定する。
2. 中間試験を 2 回(7 月、10 月)実施する。中間試験でも不合格者に対して再試験を実施する。
3. 担当教員の出題数は、正田(20 問)、福田(15 問)、大塚(18 問)、谷本・篠原(16 問)、星野(15 問)、熊谷(11 問)、鈴木等(5 問)である。
4. 欠席数は授業回数 $\frac{1}{3}$ を超えないこと。担当教員ごとに集計する。ただし、授業回数の少ない担当教員の授業はこの限りではない。臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に 1 枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

試験終了後や課題提出後、授業内で解答・解説を実施する。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを理解した上で、単位取得、実力向上に向け努力すること。国家試験の日程を考慮し、定期試験は 12 月に実施する。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業担当教員から授業開始時に指示。基本的に授業終了時に対応する。

受付場所： 授業担当教員研究室

上記で対応できない場合：授業担当教員研究室前のメッセージボードに氏名、用件を書いておく。

(メール対応可)

健康・栄養総合演習Ⅱ (4単位) (管理栄養学科)

開講時期 4年・前・後期
 担当者氏名 正田良介 小林陽子 宮内眞弓

◆授業概要

専門基礎分野の「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」及び、専門分野の「臨床栄養学」と「応用栄養学」は、管理栄養士が実務を遂行するために身につけておくべき専門教科である。管理栄養士国家試験対策においてもその理解は最重要であるにもかかわらず学生が苦手とする教科でもある。4年次に開講される管理栄養士国家試験対策補習の実効を上げるためにもこの分野を理解することは不可欠である。健康・栄養総合演習Ⅱにおいては、各教科の基礎力の確認と国家試験対策に向けて実力向上を目指す。

◆到達目標

1. 専門基礎分野及び専門分野の実力と応用力を十分に身につけることができる。
2. 管理栄養士国家試験に合格できる知識と能力を身につける。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
12回	疾病の成り立ち	<ul style="list-style-type: none"> ・疾病診断の概要 ・疾病治療の概要 ・栄養障害と代謝疾患 ・消化器系 ・循環器系 ・腎・尿路系 ・内分泌系 ・神経系 ・呼吸器系 ・運動器(金・骨格)系 ・生殖系 ・血液・リンパ・凝固系 ・免疫、アレルギー系 ・感染症 ・特殊環境と栄養ケア 	<p>予習:教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える (テーマ毎60分×12回)</p> <p>復習:授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す(特に誤り箇所について重点的に見直す) (テーマ毎60分×12回)</p>
12回	臨床栄養学Ⅰ (基礎分野)	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床栄養学の概念 ・傷病者・要介護者の栄養アセスメント ・栄養ケアの計画と実施 ・栄養・食事療法、栄養補給法 ・傷病者・要介護者への栄養教育 ・モニタリング、再評価 ・薬と栄養・食事の相互作用 ・栄養ケアの記録 	<p>予習:教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える (テーマ毎60分×12回)</p> <p>復習:授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す(特に誤り箇所について重点的に見直す) (テーマ毎60分×12回)</p>
18回	臨床栄養学Ⅱ (疾患・病態別)	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養障害 ・肥満と代謝疾患 ・消化器疾患 ・循環器疾患 ・腎・尿路疾患 ・内分泌疾患 ・神経疾患 ・摂食障害 ・呼吸器疾患 ・血液系の疾患病態 ・筋・骨格疾患 ・感染症 ・免疫・アレルギー疾患 ・癌 ・手術、周術期患者の管理 ・クリティカルケア ・摂食機能の障害 ・身体・知的障害・乳幼児疾患 ・妊産婦・授乳婦疾患 ・老年症候群 	<p>予習:教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える (テーマ毎60分×18回)</p> <p>復習:授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す(特に誤り箇所について重点的に見直す) (テーマ毎60分×18回)</p>
9回	応用栄養学Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養ケア・マネジメントの概念 ・栄養アセスメント ・栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価、フィードバック ・食事摂取基準の意義 ・食事摂取基準策定の基礎理論 ・食事摂取基準活用の基礎理論 ・エネルギー・栄養素別食事摂取基準 	<p>予習:教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える (テーマ毎60分×9回)</p> <p>復習:授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す(特に誤り箇所について重点的に見直す) (テーマ毎60分×9回)</p>
9回	応用栄養学Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・成長、発達、加齢の概念 ・妊娠期・授乳期 ・新生児期・乳児期 ・成長期(幼児期・学童期・思春期) ・成人期(成人期・更年期) ・高齢期 等各ライフステージ毎の生理的特徴及び栄養アセスメントと栄養ケア ・運動・スポーツと栄養 ・運動と栄養ケア ・環境と栄養 ・ストレスと栄養ケア 	<p>予習:教科書、参考書、配布資料等を読み、予習し過去問を基にしたテストに備える (テーマ毎60分×9回)</p> <p>復習:授業内容を復習し、テスト内容について再度見直す(特に誤り箇所について重点的に見直す) (テーマ毎60分×9回)</p>

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
臨床栄養学 基礎編	本田佳子 土江節子 曾根博仁	羊土社
臨床栄養学 疾病別編	本田佳子 土江節子 曾根博仁	羊土社
応用栄養学	森基子 他	医歯薬出版
応用栄養学実習	五関正江 他	建帛社

◆参考書

書名	著者	発行所
クエスチョン・バンク 管理栄養士 国家試験問題解説	医療情報科学研究所編	メディックメディア
日本人の食事摂取基準 (2020 年版)	厚生労働省「日本人の食事摂取基準 (2020 年版)」策定検討会報告書	第一出版
レビューブック	医療情報科学研究所編	メディックメディア

◆関連科目

人体の構造と機能・基礎栄養学・栄養教育論・公衆栄養学

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技 (発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲	10		

(補足)

1. 定期試験において 100 点満点中 60 点を合格とするが、学習に取り組む姿勢等も含めて総合的に評価し、単位認定する。
2. 中間試験を 1 回 (7 月) 実施する。中間試験でも 60 点以上を合格とするが、単位取得したわけではないので間違えないようにすること。中間試験でも不合格者に対して再試験を実施する。
3. 当教員の出題数は、小林 (33 問) 宮内 (67 問) である。
4. 欠席数は授業回数¹の 1/3 を超えないこと。担当教員ごとに集計する。臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に 1 枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

提出後、授業内で解答・解説する。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを承知し、単位取得、実力向上に向け努力すること。

◆オフィスアワー

受付時間：授業担当教員から授業開始時に指示。基本的には授業終了時に対応する。

受付場所：授業担当教員研究室

上記で対応できない場合：授業担当教員研究室前のメッセージボードに氏名、要件を書いておく。また、大学に登校できない場合は、メールで対応も行う。

健康・栄養総合演習Ⅲ (4単位) (管理栄養学科)

開講時期 4年・通年

担当者氏名 倉橋俊至 高橋美恵子 佐藤ひろ子 風見公子 柴田隆一

◆授業概要

専門基礎分野の「社会・環境と健康」と専門分野の「公衆栄養学」、「栄養教育論」、「給食経営管理論」は、管理栄養士として実務を遂行するために身につけておくべき基本教科である。国家試験対策においてもその理解は最重要である。各教科の基礎力の向上と管理栄養士国家資格取得のための実力向上を目指す。

◆到達目標

1. 4分野教科の基礎力を十分に身につけ、横断的な理解と応用力を養う
2. 管理栄養士国家試験合格レベルを達成する

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
15回	公衆衛生学 (倉橋俊至)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会と健康(1) ・環境と健康(1) ・健康、疾病、行動に関わる統計資料(2) ・健康状態・疾病の測定と評価(2) ・生活習慣(ライフスタイル)の現状と対策(2) ・主要疾患の疫学と予防対策(3) ・保健・医療・福祉の制度(3) ・公衆衛生学関係応用(1) 以上のまとめ及び過去問演習等	予習:教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60分)
			復習:模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60分)
15回	栄養教育論 (高橋美恵子)	<ul style="list-style-type: none"> ・行動科学の理論とモデル(1) ・栄養カウンセリング(1) ・行動変容技法と概念(1) ・組織づくり・地域づくりへの展開(1) ・栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル(1) ・健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント(1) ・栄養教育の目標設定(1) ・栄養教育計画立案(1) ・栄養教育プログラムの実施(1) ・栄養教育の評栄養教育の評価(1) ・ライフステージ別の展開(2) ・栄養教育論関係応用(3) 以上のまとめ及び過去問演習等	予習:教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60分)
			復習:模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60分)
15回	公衆栄養学 (佐藤ひろ子)	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆栄養の概念(1) ・健康・栄養問題の現状と課題(2) ・栄養政策(3) ・栄養疫学(3) ・公衆栄養マネジメント(3) ・公衆栄養プログラムの展開(3) ・公衆栄養学関連応用(1) 以上のまとめ及び過去問演習等	予習:教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60分)
			復習:模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60分)

15 回	給食経営 管理論 (風見公子 ・柴田隆一)	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の概念(4) ・給食経営管理の概念(2) ・栄養・食事管理(1) ・給食における品質管理・生産管理・提供管理(5) ・給食の安全・衛生 (2) ・給食経営管理論関連応用 (1) 以上のまとめ及び過去問演習等	予習：教科書、配布資料を読んで、重要なキーワードをノートにまとめておく(60分) 模試テストや小テストに備え、不明点を調べ質問や確認をする。(60分)
			復習：模試テストや小テストで苦手な項目については配布資料や教科書などで理解を深めておく。(60分)
授業回数 (60回)		公衆衛生学 (15回), 栄養教育論 (15回) 公衆栄養学 (15回), 給食経営管理論 (15回)	

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
各科目の教科書		

◆参考書

書名	著者	発行所
クエスチョン・バンク 管理栄養士国家試験問題解説 2022	医療情報科学研究所編	メディックメディア
管理栄養士国家試験完全攻略	日本医歯薬研修協会	日本医歯薬研修協会
レビューブック管理栄養士 2022	医療情報科学研究所	メディックメディア

◆関連科目

公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ, 保健・福祉概論, 公衆栄養学, 公衆栄養学実習

栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・栄養教育論実習, 給食計画論, 給食経営管理論・給食経営管理実習Ⅰ・Ⅱ

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	80	小テスト	10
レポート		実技(発表・コミュニケーション)	
学習に取り組む姿勢・意欲 (補足)	10		

1. 定期試験において100点満点中60点を合格とするが、学習に取り組む姿勢等も含めて総合的に評価し、単位認定する。
2. 中間試験を1回(7月)実施する。中間試験でも60点以上を合格とするが、単位取得したわけではないので、間違えないようにすること。中間試験でも不合格者に対して再試験を実施する。
3. 担当教員の出題数は、倉橋(25問)、高橋(25問)、佐藤(25問)、風見(25問)である。
4. 欠席数は授業回数の1/3を超えないこと。担当教員ごとに集計する。臨地実習、教育実習は専用の欠席届を国試対策室に1枚提出すること。就職活動等で欠席する場合は、国試対策室前に設置してある欠席届に記入し提出する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

試験終了後や課題提出後、授業内で解答・解説を実施する。

◆受講上の注意事項及び助言

管理栄養士国家試験受験資格必須科目であることを承知し、単位取得、実力向上に向け努力すること。国家試験の日程を考慮し、定期試験は12月～1月に実施する。

◆オフィスアワー

受付時間： 授業担当教員から授業開始時に指示。基本的に授業終了時に対応する。

受付場所： 授業担当教員研究室

上記で対応できない場合：授業担当教員研究室前のメッセージボードに氏名、用件を書いておく。

学生個人と時間、場所を打ち合わせ対応する。又はメールで対応する。

栄養教育実習事前事後指導

(1単位)

(管理栄養学科)

開講時期 3年・後期 4年・前期
 担当者氏名 有村久春 田中広美 嶺井正也

◆授業概要

事前指導では、栄養教育実習生として学校の教育活動に参画する意欲を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察するとともに、栄養教諭免許状取得までに習得すべき知識や技術等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。

◆到達目標

1. 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。
2. 栄養教育実習の意義や目的について理解するとともに、実習を円滑に効果的に行うために必要な知識・技能態度を習得することができる。
3. 食に関する指導の実践に積極的に参画できる。
4. 実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、栄養教諭免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解できる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	栄養教育実習の法的根拠と学校教育の法令 (有村)	「栄養教育実習」実施の法的根拠、受入の法的根拠等を理解する。	予習 シラバスを読んでおく。(60分)
			復習 授業の内容をまとめて提出する。(60分)
2	栄養教育実習の意義と目指す教師像 (有村)	栄養教育実習の意義、理想の教師像、教師に求められる資質を理解する。	予習 課題プリントを読んでおく。(60分)
			復習 課題プリントにまとめる。(60分)
3	教育実習の準備と心得 (有村)	事前準備、実習期間中の一般的な注意事項について理解する。	予習 課題プリントを読んでおく。(60分)
			復習 課題プリントにまとめる。(60分)
4	学校経営、公務分掌、サービスについて (有村)	校内の組織、教育計画、教師の職務内容等について理解する。	予習 課題プリントを読んでおく。(60分)
			復習 講義の内容をまとめて提出する。(60分)
5	児童心理の理解と指導 (有村)	児童理解とその指導法について理解する。	予習 課題プリントを読んでおく。(60分)
			復習 講義の内容をまとめて提出する。(60分)
6	食育の授業の進め方 (嶺井)	DVDでモデル授業の視聴および4年生による体験報告から授業の具体的なあり方を理解する。	予習 資料の該当箇所を読んでおく。(60分)
			復習 授業中に出てきたポイントを確認する。(60分)
7	模擬授業の準備 (嶺井)	教材研究の方法や学習指導案作成に取り組む。	予習 学習指導案作成に関するプリントを確認しておく。(60分)
			復習 学習指導案の修正を行う。(60分)
8	模擬授業 ① (嶺井)	順次模擬授業をおこない、相互評価を行う。	予習 事前に配布された指導案を検討しておく。(60分)
			復習 相互評価で出された意見や助言を整理し、確認する。(60分)
9	模擬授業 ② (嶺井)	順次模擬授業をおこない、相互評価を行う。	予習 事前に配布された指導案を検討しておく。(60分)
			復習 相互評価で出された意見や助言を整理し、確認する。(60分)
10	模擬授業 ③ (嶺井)	順次模擬授業をおこない、相互評価を行う。	予習 事前に配布された指導案を検討しておく。(60分)
			復習 相互評価で出された意見や助言を整理し、確認する。(60分)
11	学校における食育の授業実践 (田中)	校内の食育推進組織、計画、栄養教諭と学級担任との関りについて理解する。	予習 模擬授業の指導案を読んでおく。(60分)
			復習 レポートを作成する。(60分)

12	栄養教諭を中核とした食育の推進 (田中)	学校現場における食育推進の現況を理解するとともに期待される栄養教師像を理解する。	予習 事前に配布された資料を読んでおく。(60分)
			復習 講義の内容をレポートにまとめる。(60分)
13	教育実習における研究課題の準備 (田中)	教育実習期間に研究課題を明確にし、その準備を行う。	予習 実習校に関する調査 (60分)
			復習 研究課題をレポートにまとめる。(60分)
14	就職対策・準備研修会 (田中)	就職対策・準備研修(4年生の就職受験の体験を聞き理解を深める。)	予習 質問事項をまとめておく。(60分)
			復習 4年生の意見や助言をレポートにまとめる。(60分)
15	科目の振り返り・まとめ (田中)	教育実習の課題を科目の学びの総括	予習 履修カルテに見直しておく。(60分)
			復習 履修カルテを提出完成させる。(60分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート	芦川修貳 田中延子	学建書院
四訂 栄養教諭論 理論と実際	金田 雅代	建帛社

◆参考書

書名	著者	発行所
学習指導要領解説 総則編	文部科学省	ぎょうせい
食に関する指導の手引	文部科学省	東山書房

※随時参考資料プリント配布

◆関連科目

基礎栄養学 臨床栄養学 応用栄養学 調理学 給食計画論 栄養教育論 栄養教育実習1 教職概論 教育原理 教育心理学 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の指導 教育方法論 生徒指導の理論と方法 学校ボランティア

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験	0	小テスト	
レポート	20	実技(発表・コミュニケーション)	60
学習に取り組む姿勢・意欲	20		

(補足) *学習に取り組む姿勢・意欲については、授業内容への問いに積極的に応えること、レポート作成および課題のプレゼンなどに取り組むことを積極的に評価する。

◆課題(試験やレポート等)のフィードバックの方法

- ・あいさつ文やレポート内容を点検し、個々の学生に適したアドバイスを文字化して返却する。
- ・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として更に授業の中で発表し合い学びの共同化を図る。
- ・教育実習の報告会において学生相互の学修の成果を発表し合い学びの共同化を図る。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に学習に取り組むこと。
- ・課題レポートに意欲的に取り組むとともに提出期限を厳守すること。
- ・グループ演習等自ら積極的に取り組むこと。

◆オフィスアワー

受付時間： 学期開始時に学務課で確認すること。

受付場所： 4号館：教職課程センター(不在の場合は、研究室入口の伝言板に用件をメモすること。)

栄養教育実習

(2単位) (管理栄養学科)

開講時期 4年・前期

担当者氏名 有村久春 田中広美 嶺井正也

◆授業概要

教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来栄養教諭になるうえでの能力や適性を考えるとともに教育課題を自覚する機会である。一定の実践的な力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。

◆到達目標

1. 小・中学校における栄養教諭の果たすべき役割を理解できる。
2. 学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、栄養教諭の専門性を生かした食に関する指導を実践できる。
3. 学校教育全体におけるコミュニケーション能力など総合的な能力を身に付ける。
4. 教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。

◆授業計画

回	項目	内容	予習・復習(標準的な所要時間)
1	オリエンテーション	教育実習生としての心構え及び諸注意を理解する。	予習 シラバスを読んでおく。(40分)
			復習 実習の要点をまとめる(60分)
2	児童の実態に応じたグラウンドデザイン	学校経営、学校教育目標、校務分掌について学ぶ。	予習 学校要覧を熟読する。(60分)
			復習 講義の要点をまとめる。(90分)
3	地域と連携した学校(チーム学校)	児童生徒の実態、家庭・地域との連携について学ぶ。	予習 家庭地域との連携事業について調べてまとめる。(60分)
			復習 実習校の食育に関する地域連携事業をまとめる。(60分)
4	「主体的・対話的・深い学び」とは	教科学習・給食指導について学ぶ。	予習 指導要領の総則を熟読する。(60分)
			復習 教科学習と給食指導の要点をまとめる。(90分)
5	栄養教諭を中核とした食に関する指導	給食管理と連携した食育活動、個別相談指導等について学ぶ。	予習 食に関する全体計画を確認する。(60分)
			復習 講義の要点をまとめる。(90分)
6	給食指導参観	給食時間の指導について学ぶ。	予習 給食指導の目標を確認する。(60分)
			復習 講義の要点をまとめる。(90分)
7	授業参観①	児童・生徒の実態を把握し、指導目標の設定方法を学ぶ。	予習 児童・生徒の食生活の課題を調べる。(60分)
			復習 食指導の課題と指導目標をまとめる。(90分)
8	授業参観②	児童・生徒の実態に即した授業計画を学ぶ。	予習 食に関する指導の全体計画を熟読する。(60分)
			復習 授業計画の立て方の要点をまとめる。(90分)
9	授業参観③	効果的な授業の進め方、板書計画等指導技術を学ぶ。	予習 良い板書計画について調べておく。(60分)
			復習 板書計画の要点をまとめる。(90分)
10	指導案の検討①	教科、指導目標の設定及び授業計画を作成する。	予習 教科の指導目標を調べておく。(60分)
			復習 教科の指導目標の要点をまとめる。(90分)
11	指導案の検討②	指導案内容の検討と指導媒体の作成をする。	予習 研究授業の指導案を見直しておく。(60分)
			復習 研究授業の準備をする。(90分)
12	指導案の検討③	担当教諭から指導案の内容について指導を受ける。	予習 研究授業の指導案・教材を完成する(60分)
			復習 担当教諭からの指導を受けた内容をまとめ改善点を修正する。(90分)
13	研究授業の事前指導	他の学級での事前指導を体験し、指導技術を学ぶ。	予習 指導案・教材を完成する。(60分)
			復習 担当教諭からの指導を受けた内容をまとめ改善点を修正する。(90分)

14	研究授業	担当学級で研究授業を行い、指導を受ける	予習 指導案・教材を手直しして完成しておく。 (60分)
			復習 担当教諭から指導を受けた内容をまとめる。 (90分)
15	総括	成果と課題をまとめる。	予習 実習ノートをまとめる。礼状の作成 (60分)
			復習 課題をまとめ自己評価をする。(90分)

◆教科書及び資料

書名	著者	発行所
四訂 栄養教諭論—理論と実際	金田 雅代 他	建帛社
栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート	芦川 修貳	学建書院

◆参考書

書名	著者	発行所
学習指導要領解説 総則編	文部科学省	ぎょうせい
食に関する指導の手引	文部科学省	東山書房

◆関連科目

基礎栄養学 臨床栄養学 応用栄養学 調理学 給食計画論 栄養教育論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 栄養教育実習Ⅰ
 教職概論 教育原理 教育心理学 教育制度論 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の指導 教育方法論
 生徒指導の理論と方法 学校ボランティア

◆成績評価の方法・基準

評価項目	評価比率 (%)	評価項目	評価比率 (%)
定期試験		小テスト	
レポート (実習ノート等)	20	実技 (発表・コミュニケーション)	20
実習校における評価	40	学習に取り組む姿勢・意欲	20

(補足) *学習に取り組む姿勢・意欲については、授業内容への問いに積極的に応えること、レポート作成および課題のプレゼンなどに取り組むことを積極的に評価する。

◆課題 (試験やレポート等) のフィードバックの方法

- ・指導案やレポート等をコピーし、受講学生全員に配布する。学びの共同化を図る。
- ・課題レポートを授業の事前に配布し、予習内容として活用する。また、発表会に活用する。

◆受講上の注意事項及び助言

- ・積極的に学習に取り組むこと。(指導案・教材作成等)
- ・課題レポートに意欲的に取り組むとともに提出期限を厳守すること。

◆オフィスアワー

時 間：学期開始時に学務課で確認すること。

受付場所：4号館5階 教育学第2研究室

※上記で対応できない場合：研究室入口の伝言板に要件を記入すること。